

応募詳細

未来社会を見据えたSDGs、プログラミング教育など、教育界は大きな変革の時期。今まで以上に思考力、表現力が求められています。そのために必要不可欠なこと・・・それは「書く力、伝える力」です。これから来るべくAI社会に打ち勝つために、人として大切な能力です。このコンクールは、単に上手な作文を求めるコンクールではありません。今の年齢ならではの心を、自分の言葉で表現してください。「書くことは、心育で」・・・ぜひ、ご参加ください。

■募集内容と文字数

幼児：【自筆部門】①絵日記 ②作文または詩 ※それぞれ1点まで(規定原稿用紙1枚以内)

【他筆部門】子どものつぶやき ※1点のみ(規定原稿用紙1枚以内)

キュンとした子どもの言葉、はっとさせられた子どもの言葉などを大人の方が代筆してください。

(子どもがつぶやいた言葉をお書きください。)

小学生：作文または詩 ※どちらか1点まで(市販の400字詰め原稿用紙、またはダウンロードした原稿用紙2枚以内)

■テーマ

自由。日々の生活の中で感じた出来事を自分の言葉で綴ってください。

<子どものつぶやきの一例>

娘の名前は「こまち」。
新幹線こまちを見に行くのが大好き。
娘「あ、こまちだ!」
「あれ、後ろに直子がくっついているよ。」
母の名前は「直子」。新幹線こまちの後ろに
旧型の東北新幹線が連結されていました。
そりゃ、旧型ですけど・・・

■その他

- ・他筆部門以外全て自筆であること。
- ・文字は鉛筆を使用。
- ・絵の画材は自由。

■応募方法

団体→団体用応募名簿、原稿用紙を協会HPよりダウンロードし、印刷してご使用ください。
必要事項を記入の上、応募名簿順に作品を重ねて、郵送してください。

個人→個人用応募用紙、原稿用紙を協会HPよりダウンロードし、印刷してご使用ください。
応募用紙に必要事項を記入の上、作品にホチキス留めをして、郵送してください。
なお、子どものつぶやき部門のみ、WEB応募を受け付けております。
右のQRコードよりご応募ください。



【子どものつぶやきWEB応募】
申込フォーム
※個人応募のみ受付

<個人情報の取り扱いについて>

応募者からの個人情報は、当コンクールに関する連絡・発表・通知・発送のために使用させていただきます。
また、その目的のため、関連会社へ業務委託する場合がございます。
法令に基づき、いつでも開示・訂正・削除できます。

<応募作品の著作権について>

応募された作品の著作権は、主催者に帰属するものとし、一切返却できません。
作品に関するお問い合わせ等には、お答えできませんので予めご了承ください。
※必要な場合は、必ず作品をコピーしておいてください。

■応募締切

2024年9月30日(月) 必着

作品応募先

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園12-1パークサイドビル203
一般社団法人 日本育脳協会 作文コンクール事務局

●各賞 団体・個人

グランプリ/準グランプリ/ブロンズ賞/優秀賞(個人賞のみ)/佳作(個人賞のみ)
優秀賞以上の作品は、季刊誌「にこり」に掲載されます。 ※グランプリには賞状並びに副賞(個人賞のみ)、準グランプリ、ブロンズ賞には賞状が贈られます。

●作品審査

2024年10月下旬までに1次審査を行います。
入選者のうち、幼児自筆部門のグランプリ候補者は、11月上旬、個別に最終審査(課題作文)を行います。

●発表

2024年12月2日(月) ※協会ホームページ上にて



【一般社団法人 日本育脳協会HP】
<https://japan-ikunou.com/>

●特別審査員

若林 富男

【profile】
元お茶の水女子大学附属小学校副校長
前江戸川学園取手小学校校長
お茶の水女子大学や日本女子大学、立教大学の講師歴任
専門：国語教育(作文教育)・生活科教育
日本国語教師の会「櫻の会」に所属
著書：ドラえもん「すらすら作文が書ける」
「じょうずに話せ、発表できる」(小学館)他多数



師尾 喜代子

【profile】
日本教育技術学会理事
NPO TOSS中央事務局
株式会社睡人社代表取締役社長
元東京都世田谷区・大田区小学校教諭
「認知症予防脳トレ士」として活動中
著書：「子どもがじっと耳を傾ける魔法のお話」(PHP)
「脳トレ絵本はじまり物語(全3巻)」
「学校で書く作文はこれでバッチリ!」
「教師の仕事が面白い!」(睡人社)他多数



田宮 由美

【profile】
家庭教育協会「子育て親育ち」代表
資格：保育士・幼稚園教諭・小学校教諭。
執筆、講演、教育機関への研修、新聞・雑誌の取材、
テレビラジオに出演。
執筆記事は、YahooニュースやLINEニュースに取り上げられ、
深い共感を得ている。
書籍「比べない子育て」(1万年堂出版)※台湾でも翻訳され出版
「子どもの能力を決める0歳から9歳までの育て方」
(KADOKAWA)他多数

